

日 薬 定 例 記 者 会 見 要 旨

日 時：令和4年10月20日（木）15：00～15：50

場 所：日本薬剤師会小4会議室

出席者：山本会長、安部副会長

提出資料：

- ・新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた医薬品提供体制の強化について（令和4年10月20日 日薬業発第271号）
- ・医薬品販売制度対応に関する自己点検の実施について（お願い）（令和4年10月11日 日薬業発第259号）
- ・薬剤耐性（AMR）対策月間ポスターについて（ご依頼）（令和4年10月7日 日薬情発第109号）

1. 新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた医薬品提供体制の強化について

山本会長より、掲題の件について説明があった。主な内容は以下の通り。

今冬は、新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行により、より多数の発熱患者が同時に生じる可能性が懸念されている。

こうした事態にも対応できるよう、政府は「With コロナに向けた政策の考え方」（令和4年9月8日、新型コロナウイルス感染症対策本部決定）に則り、限りある医療資源の中でも、高齢者・重症化リスクの高い方に適切な医療を提供するための保健医療体制の強化・重点化を進める方針を示した。

これを具体的に進めるために、重症化リスク等に応じた外来受診・療養への協力の呼びかけなどの対策に取り組む必要があることから、厚生労働省では「新型コロナ・インフル同時流行対策タスクフォース」を立ち上げ、10月14日および18日に本会議が開催された。会議では岸田内閣総理大臣、加藤厚生労働大臣より直接、日本医師会、日本薬剤師会ほか関係団体、学会等に対し、同時流行に備えた協力要請があった。薬局に関しては、特に以下の内容で要請を受けた。

- ・インフル等の体調不良等により受診を希望する患者の電話診療・オンライン診療体制の強化
- ・発熱等の体調不良時に備えて、国民が予め新型コロナの検査キットやOTCの解熱鎮痛薬を備えるための薬局等での販売・相談対応等

各都道府県薬剤師会には、同時流行に備えて、都道府県医師会、都道府県等自治体関係者、医薬品卸売販売業者等、地域の関係者と引き続き連携を行っていただき、各地域の実情に応じた体制整備を進めていただくよう通知を発出した。

また、地域住民が抗原定性検査キットやOTCの解熱鎮痛薬をあらかじめ自宅に準備できるように、地域の薬剤師からの備えの呼び掛けと、薬局における販売の強化についても併せて

要請した。

2. 医薬品販売制度対応に関する自己点検の実施について（お願い）

安部副会長より、掲題の件について説明があった。主な内容は以下の通り。

本会では、「令和3年度医薬品販売制度実態把握調査（調査期間は令和3年11月～令和4年2月）」の結果が公表されたことを受け、本年度も会員の従事する薬局・店舗が医薬品販売制度における法令を遵守していることを確認する目的で、会員の従事する薬局・店舗において自己点検の実施を行う。

今般公表された「令和3年度医薬品販売制度実態把握調査」については、「第1類医薬品における文書を用いての情報提供」「その内容の理解等の確認」、「濫用等のおそれのある医薬品の複数購入」において対応が未だ不十分であることが確認されたことを受け、昨年度に引き続き、点検表において重点項目とした。

さらに本年度は、これらの項目をより重点的に確認し、全ての項目で法令に則った対応を確実に実施するために、薬局・店舗においては、まず全項目について点検し、不十分な項目があれば改善を行った後に、さらに重点項目を確認した上で、適切に実施できる状態であることを各都道府県薬剤師会にご報告いただく手順とした。

各都道府県薬剤師会には、会員の従事する薬局・店舗に対して、自己点検表を配付いただき、その点検結果を貴会において集計の上、集計報告書にご記入いただき、令和4年12月12日（月）までにご報告いただくように通知を発出した。

なお、報告された結果は、本会にて取りまとめた上で、都道府県毎の実施結果をお知らせする予定である。

3. 第55回日本薬剤師会学術大会のポスター優秀賞選考結果について

安部副会長より、掲題の件について説明があった。主な内容は以下の通り。

本会では、薬剤師の調査・研究活動への意識向上並びに調査・研究内容のさらなる質の向上に資することを目的に、第48回日本薬剤師会学術大会（鹿児島大会）より、ポスター優秀賞を創設している。

第55回大会（令和4年10月9日・10日、宮城県仙台市）においては、開催方式を「現地開催」と「WEB開催」のハイブリッド形式とし、3年ぶりに現地でのポスター掲示、示説を行った。ポスター優秀賞審査委員会では、発表データについて、学術性、新規性、将来性、医療等への貢献等、総合的な観点から審査を行い、最優秀賞1題、優秀賞4題を選考した。

4. 薬剤耐性（AMR）対策月間ポスターについて（ご依頼）

安部副会長より、掲題の件について説明があった。主な内容は以下の通り。

今般、内閣官房新型インフルエンザ等対策室より、11月の「AMR対策推進月間」に合わせて抗菌薬の適正使用をテーマにしたポスターを作成されたとの事務連絡を受け、ポスター「薬剤耐性（AMR）って何だろう？」をA4判に印刷したものを11月の「医薬情報おまとめ便」に同梱する予定である。

各都道府県薬剤師会には、会員に向けて本ポスターを薬局内で掲出いただくとともに、薬剤耐性（AMR）対策に関する研修や勉強会等の開催を検討いただくように通知を発出した。

記者からの質問は以下の通り。

記者：新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応の強化については、「新型コロナ・インフル同時流行対策タスクフォース」の開催前から関係団体との話し合いが行われていたのか。

山本会長：本件についてはタスクフォースの開催前から関係団体と事前に話をしていた。

記者：新型コロナと季節性インフルエンザの同時流行時の対応を見据えたインフル検査キットのOTC化について、日薬の見解を伺いたい。

山本会長：感染症法上、新型コロナとインフルの扱いが違うため、今後どのような対応になるか分からない。会内では、まずはコロナの対応をどうするかについて議論を行っている。

記者：2024年秋に現行の保険証が廃止されることに伴い、国はマイナンバーカードと保険証を一体化する方針を示した。この件について、日薬の受け止めに伺いたい。

山本会長：マイナンバーカードに保険証が紐づけされることによって、便利になるのは良いことだと思う。しかし、カードを紛失した時の対応やセキュリティに関する懸念、さらには実施までの期間が短いことから、システム上での申請に不慣れな高齢者等が取り残されたり、現場が混乱しないようにする必要があると考える。

次回の定例記者会見は、令和4年11月2日（水）、16：00～17：00

以上